

「第36回福島県青少年健全育成推進大会」報告 ～生かそう、きずな。未来のために！～

明けましておめでとうございます。昨年は福島県青少年育成県民会議の行事や運営につきまして多大なる御支援・御協力いただきましてありがとうございました。今年もどうぞよろしく願いいたします。明るい未来に向かって子どもや若者が健やかに伸びていくよう願っております。

昨年11月20日(金)、福島県文化センター小ホールにおいて「第36回福島県青少年健全育成推進大会」が盛大に実施されました。東日本大震災及び原子力災害から2年9ヶ月が経過し、日々復興再生に向けて多様な取組みが為される中、本県青少年の健全育成も積極的に推進されています。殊に当日受賞された個人・団体の皆様方の積極的な活動の継続には心から敬意を表します。

開会に先立ち、オープニングセレモニーとして福島市立西信中学校合唱部の皆さんによるさわやかな歌声がホールいっぱいに響きわたり、大会に花を添えていただきました。

開会の言葉に続いて福島県知事(副知事が代理)の主催者あいさつがあり、その後表彰式にうつりました。



① 福島県青少年健全育成条例に基づく知事表彰



○青少年団体の部

ガールスカウト福島県第28団様(いわき市)

○青少年育成団体の部

日和田町子ども会育成協議会様(郡山市) 福田地区推進協議様(新地町)

○青少年育成者の部

高橋考一郎様(福島市) 渋川綾子様(郡山市) 小畑恵理子様(矢吹町) 小檜山利伊様(喜多方市) 木村 理様(いわき市)

② 福島県青少年育成県民会議会長表彰

○青少年指導者の部

森口和春様(福島市) 菊池慎治様(伊達市) 佐藤喜久子様(郡山市) 佐藤 範子様(郡山市) 野中千佐子様(郡山市) 金澤和夫様(白河市) 佐藤一夫様(会津若松市) 田中善雄様(喜多方市) 玉川森男様(下郷町) 岩崎和夫様(相馬市) 船橋まつ子様(南相馬市) 森 直人様(新地町)

○青少年団体・青少年育成団体の部

福島市少年会育成会連絡協議会様(福島市) 新田愛宕神社獅子踊り保存会様(伊達市) いわしろRC様(二本松市) 大成剣道スポーツ少年団様(郡山市) ボーイスカウト福島連盟矢吹第1団様(矢吹町) 犯罪抑止隊「会津葵隊」様(会津若松市) 江川っ子応援団様(下郷町) 田島地区老人クラブ子ども見守り隊様(南会津町) 南相馬地区少年警察ボランティア会様(南相馬市) ボーイスカウト福島連盟いわき3団様(いわき市)

○青少年育成市町村民会議の部

伊達市青少年育成市民会議様、棚倉町青少年育成町民会議様



○青少年健全育成成功労者の部

和合治幸様（福島市）小野洋子様（伊達市）佐藤光孝様（川俣町）八代 實様（郡山市）

伊藤哲雄様（西会津町）長谷川伸一様（いわき市）

3 「家庭の日」作文、絵画、ポスター作品最優秀者知事表彰

○作文の部

緑川 圭さん（矢祭町石井小2年）杉澤亜弥さん（油井小4年）

大内尚実さん（東和小6年）加藤 伶さん（会津学鳳中2年）

○絵画の部

鈴木結衣さん（泉北小2年）八島遼馬さん（国見小4年）渡邊さくらさん（小金井小5年）

○ポスターの部

大塚風鈴さん（白河中央中2年）

4 内閣府「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」伝達

会津若松市青少年育成市民会議様

5 独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長表彰「努力賞」伝達

加藤 茜さん（岳陽中3年）

栄えある表彰状を受け取られた皆様に、来賓の福島県議会議長様、福島県教育委員会教育長様、福島県警察本部長様から心あたたまるご祝辞をいただきました。

続いて、今年度は「家庭の日」作文コンクール及び「少年の主張」県大会最優秀者の発表にうつり、福島県の未来をになう小中学生のすばらしい発表に大きな拍手が送られました。



「家庭の日」作文コンクール最優秀作品紹介

緑川 圭さん（矢祭町立石井小学校2年）「わたしのたからもの」

お父さんから「お母さんのおなかに赤ちゃんがいる」と知らされたときの驚きと感動、赤ちゃんを待つ期待、あまりに元気な胎動だったので弟かと思っていたら女の子だったというユーモアの中に、「小さなお母さん」として「たからもの」である妹への愛情があふれています。

杉澤亜弥さん（二本松市立油井小学校4年）「夏休みのやくそく」

お母さんが仕事に出るため夏休みは妹と留守番をしました。夏休み前の家族会議で決めた「火を使わない」「自分でできることは自分でやる」等6つの約束をしっかりと守って頑張った様子がわかります。電話で両親の声を聞くと安心することや自分自身の成長を実感しています。

大内尚実さん（二本松市立東和小学校6年）「母のルーツ」

フィリピン出身の母と一緒にダバオ島に里帰りした折、母がなぜ日本に嫁いだかを質問した時の筆者の複雑な思いや母の答えを聞いた後の感動が具体的に述べられています。「サラマー（ありがとう）が口癖の母に優しさと強い意志を感じ「母を誇りに思う」という言葉が印象的です。

加藤 伶さん（福島県立学鳳中学校2年）「行事で繋ぐ家族の絆」

作文冒頭の「ワッハッハ」は自宅で収穫した初物きゅうりをかじり、東を向いて声高々に笑う声。1年365日。決まった日に決まった形で昔から変わらずに行われる年中行事の様子を生き生きと描写する中で、毎日が「家庭の日」の家で成長出来たことは自分の財産、と書いています。



※ 「少年の主張」最優秀賞作品の概要は前号で紹介しています。また、「家庭の日」作文コンクール最優秀作品は「福島県青少年育成県民会議」のホームページでご覧になれます。

児童生徒による発表の余韻さめやらぬ中、伊達市青少年育成市民会議副会長湯田健一伊達市教育委員会教育長様が力強く大会宣言を読み上げられ、大会を締めくくりました。